"赤旗の歌"を続りて

―それは労働階級の歌である

―それは労働者の先頭に翻る旗―それは赤旗―

敷日前、ある職場で「退職手当」や「組立法」に就いて話をした後で一組合員から「赤旗の歌」を歌うから困る、との意見が述べられた。私はメーデーその他の示威行進の際みんなで何度も歌って来たし、共産党の歌ではないといい切って色々説明を加えて了解して来たのであるが、意見を出した人から「私たちではないらしいから調査してほしい」という要望がなされたので、もう一度調べたいと思って帰った。

ところがその後いろいろ所用が重なり調査を完了したわけではないが、丁度三月一日から二日に労働者の全国的な蹶起大会が指令されて来たので、編集者に「時間的な制限をつけられ乍ら敢行しても雑弁に証明している如く、資本家側は一八一人の労働者から金や選挙を中心にして労資双方は極端に憎まれ続けられるという事になるが、事実はどうだろうか。

死物ぐるいの闘いをやっているが、「ドッカ」という事で不当に圧迫されている（普通の民主々義者でさえ、「ドッカ」をあちこちで打っているのだ。我々より強力なのはストだけでなく、つまり組合活動だけでなく彼等は既に消費生活を全国化する協同組合をもち、国家の政策に強力な発言をする労働者政党の実現にも成功し、いわゆる労働者階級の運動を展開しつゝある。反動的な政府の暴力なる弾圧に抵抗し失業の危険にさらされ、傷病の苦痛を味う間も労働者としての立場は全く同断である。とするなら全世界の労働者は團結すべきであるし、また国際的な労組団体も出来ているのである。之は個人の感情では説明されない労働者の共通の宿命である。米ソの対立が如何に運動をデグザグにしようと、本質的には不変なものを持っていると考えざるを得ない所だ。即ち、特定の事物に対する感覚とは別に労働者同志としての利害や運命を共にするという感覚が、いわゆる階級意識であろう。

従って共産党が使った所の「アカハタ」をめぐっての考え方を、「赤旗の歌」にまで延長するのは間違っているのではないか。全世界の労働者の先頭にひるがえる旗は殆んど赤旗である。

この場合、我々自旗を振り、黒旗を振る事がどんな事か、もう一度考えてみる事も必要であろう。メーデーを五月一日以外の日に変える理由を各自が考えるのも必要ではなかろうか。

尚、尽りない所を次号に補足して行きたい。

本所　茨原茂雄

赤旗の歴史

赤い旗が労働者階級解放の旗であるしになったのは一八四八年二月革命の時、パリーの労働者が赤マフラ、赤リボンの幅を、赤い旗をシンボルにひるがえし政府に対しフランスの国旗たる三色旗を赤旗に かえることを要求したのに初まる。

処刑された「赤旗事件」なるものが、日本では明治四一年（一九〇八年）六月二十二日に山口孤剣という社会主義者の出獄歓迎会の直後二本の赤いがらがえされ、警官隊と衝突し九名が一一年の刑に処せられた。

赤旗は何を意味するか

それは民衆の血、解放の情熱をもつ人々を表現するものとされている。

ところがドイツ共産党も「ローテ・フアーネ（ドイツ語で赤旗）」という機関紙をもったし、日本共産党も「アカハタ」という機関紙を出していたのも周知の通りである。従って赤旗は一般に共産党の旗印とされ「赤旗の歌」も同断と思われるのであろう。

「切迫詰まりや、親愛まで憎い」という諺があるが、このような感情衝動では、近代社会のもつ我々の六年の闘争の歴史が何物よりも、ある職場で「退職手当」や「組立法」に就いて話をした後で一組合員から「赤旗の歌」を歌うから困る、との意見が述べられた。私はメーデーその他の示威行進の際みんなで何度も歌って来たし、共産党の歌ではないといい切って色々説明を加えて了解して来たのであるが、意見を出した人から「私たちではないらしいから調査してほしい」という要望がなされたので、もう一度調べたいと思って帰ったわけである。ところがその後いろいろ所用が重なり調査を完了したわけではないが、丁度三月一日から二日に労働者の全国的な蹶起大会が指令されて来たので、編集者に「時間的な制限をつけられ乍ら敢行しても雑弁に証明している如く、資本家側は一八一人の労働者から金や選挙を中心にして労資双方は極端に憎まれ続けられるという事になるが、事実はどうだろうか。

死物ぐるいの闘いをやっているが、「ドッカ」という事で不当に圧迫されている（普通の民主々義者でさえ、「ドッカ」をあちこちで打っているのだ。我々より強力なのはストだけでなく、つまり組合活動だけでなく彼等は既に消費生活を全国化する協同組合をもち、国家の政策に強力な発言をする労働者政党の実現にも成功し、いわゆる労働者階級の運動を展開しつゝある。反動的な政府の暴力なる弾圧に抵抗し失業の危険にさらされ、傷病の苦痛を味う間も労働者としての立場は全く同断である。とするなら全世界の労働者は團結すべきであるし、また国際的な労組団体も出来ているのである。之は個人の感情では説明されない労働者の共通の宿命である。米ソの対立が如何に運動をデグザグにしようと、本質的には不変なものを持っていると考えざるを得ない所だ。即ち、特定の事物に対する感覚とは別に労働者同志としての利害や運命を共にするという感覚が、いわゆる階級意識であろう。

従って共産党が使った所の「アカハタ」をめぐっての考え方を、「赤旗の歌」にまで延長するのは間違っているのではないか。全世界の労働者の先頭にひるがえる旗は殆んど赤旗である。

この場合、我々自旗を振り、黒旗を振る事がどんな事か、もう一度考えてみる事も必要であろう。メーデーを五月一日以外の日に変える理由を各自が考えるのも必要ではなかろうか。

尚、尽りない所を次号に補足して行きたい。

本所　茨原茂雄

赤旗の歴史

赤い旗が労働者階級解放の旗であるしになったのは一八四八年二月革命の時、パリーの労働者が赤マフラ、赤リボンの幅を、赤い旗をシンボルにひるがえし政府に対しフランスの国旗たる三色旗を赤旗に かえることを要求したのに初まる。

処刑された「赤旗事件」なるものが、日本では明治四一年（一九〇八年）六月二十二日に山口孤剣という社会主義者の出獄歓迎会の直後二本の赤いがらがえされ、警官隊と衝突し九名が一一年の刑に処せられた。

赤旗は何を意味するか

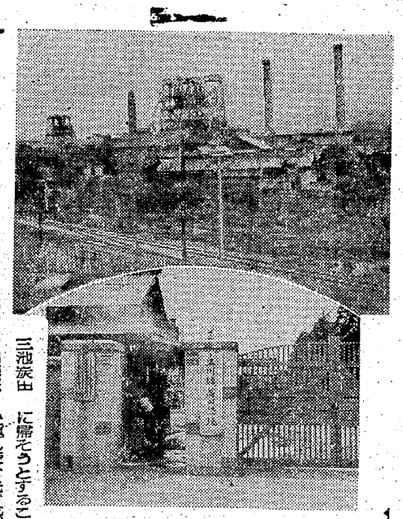
それは民衆の血、解放の情熱をもつ人々を表現するものとされている。

ところがドイツ共産党も「ローテ・フアーネ（ドイツ語で赤旗）」という機関紙をもったし、日本共産党も「アカハタ」という機関紙を出していたのも周知の通りである。従って赤旗は一般に共産党の旗印とされ「赤旗の歌」も同断と思われるのであろう。

「切迫詰まりや、親愛まで憎い」という諺があるが、このような感情衝動では、近代社会のもつ我々の六年の闘争の歴史が何物よ

昔の光 今いずこ

その後どうなったか??（第三回）



三池炭山

心痛む老殘の姿……

萬田鑛

は今や全く廃墟から有明海底下へとその主舞台を移し、曾つて五十年の輝かしい歴史において三池炭鉱今回の大をなす基礎を作った万田鉱はすっかり取り残された形で昨年秋限りない哀愁の裡に寂しく閉鉱式が執り行われた。その跡うら寂寞感なく、漸く荒廃に帰そうとするこのヤマに足を運んで、先ず感じるのは僅か四月足らずの短い期間だとは到底思えない程の変貌ぶりである。文字通りの廃墟――生命の営みを止めた墓場にこんなにも相貌が変るものだろうか？坑外施設は不動産課が調査に調査を重ねてドシ〜撤去させている。選炭場はガラン胴になってしまったし、保安課室は跡片すらなくなった竪坑櫓は二坑が残されているだけで、軋裂み深い二坑櫓は全く機能を停止した。

その撤去作業中明治卅八年に設付られたヤグンのヘッド・シーブが発見されたが、初め卅五粍厚の厚さをもっていたのが永い歳月の間に十粍程にすり減って居たという。

こゝの現在残留員は二七名、主として排水ポンプとそれに関連した機械の八名で、ポンプは二坑底　宮原六五片、三八片、七浦二片、六三卸二四片などに全部で五一台、二万一千馬力の設備を持っていたが、今では四〇台位に減り常時運転しているのはそのうち五千馬力程度、それも三川の十八百馬力始め四山三四片のポンプ座運転などで次第に領域を狭め何れは坑底の排水だけに止められたろうとの感慨深げに語る。

三池炭鉱の歴史は全国の産業史上に有名な存在であるが、この様な変遷は全国の産業史上に有名な存在であるが、この様な変遷は全国の産業史上に有名な存在であるが、この様な変遷